高等部道徳科学習指導案 『礼に始まり礼に終わる』

**１　主題名**　礼儀の大切さ　Ｂ-(７）　礼儀

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・礼儀の大切さ

・相手の立場になって考え、行動したり、発言したりできる。

・礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接することができる。

（2）教材　　礼に始まり礼に終わる　（P38-41）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| Ｂ　主として人との関わりに関すること　（７）　礼儀  礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとること。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

「礼儀」は，他者に対するものであり，身に付けておくべきことであると考えられる。具体的には言葉遣い，態度や動作として表現される。また、将来の職場での円滑なコミュニケーションや人間関係作りにつながる。なぜ礼儀が必要なのか、なぜ相手に敬意を表すのかなど、礼儀の意義について考える。

相手の気持ちになって考える。そして、礼儀の大切さを改めて知り、普段の学校生活において誰に対しても、真心をもって接することができる態度を育てていく。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを簡単な言葉で書き表すことができる生徒を対象とする。字を書くことが苦手な生徒に対しては、話し言葉での表現を代筆するなどの配慮を行う。吃音などの生徒がいる場合には発表や協議の際に必要に応じて紙に書いて発表を行うなどの配慮も行う。

学校生活においては、生徒指導や特別活動、職業、また自立活動を中心に、挨拶や感謝の気持ちの指導と関連させて、声に出してコミュニケーションすることの大切さを指導していく。また、進路選択のための現場実習に行く生徒も多くいると想定できるため、その事前学習や事後学習の中にも礼儀の大切さを踏まえた指導を行う。

（３）教材について【教材観】

高校の野球部を例に「なぜあいさつが終わるまで喜ぶのを我慢していたのか」ということの協議を行う。部活を例にすることで自分たちに身近な話題として捉え、また自分の経験から発言がしやすいテーマを選択している。

　また写真を見て、「誰に」「何を言っている」を考える教材も使用している。この教材では、第3者的な立場から、写真に写っている人の気持ちになって発言や気持ちを考えられるようになっている。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画 １時間（本時）

（2）準備　　　教科書、P.４１の写真の拡大、タブレットPC等

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導  入 |  | 〇礼儀をする場面を教師が見せる。  ・普段の会話や行動とも違いを見つける。  〇どんな場面で礼儀が必要なのか？ | ・敬語で話す。  ・ルールを守る。  ・マナーを守る。  ・先生と話すとき。  ・部活の試合。  ・電車やバスの中。 | ・自分の経験上、礼儀だと思うことを発表する  ・難しい場合にはタブレットPCで調べる。  ・学校内での場面を思い出し、エピソードを引き出す。  ・生徒の発言を板書で残しておく。  ☆礼儀は相手のことを考えた自分の発言や行動であることを理解する。  （知・技） |
| 展  開  ① |  | 〇教科書「礼に始まり礼に終わる」を読み、話し合う。  〇選手たちはなぜあいさつが終わるまで喜ぶのを我慢していたのか？  〇班ごとに発表を行う。自分の意見や良い意見だと思ったものを教科書P４０に記入をする。  〇ほかのスポーツでの礼儀について調べてみよう  〇班ごとに発表を行う。自分の意見や良い意見だと思ったものを教科書P４０に記入をする。  〇柔道や剣道の礼儀の場面の動画を視聴する。  課題　写真の場面を見て「誰に」「何を言っているのか」考えよう  〇P４１の上の写真を見て、「誰に」「何を言っているのか」を考える。 | 課題　選手たちはなぜあいさつが終わるまで喜ぶのを我慢していたのだろか  ・相手チームは負けて悔しい気持ちだから。  ・挨拶までが試合だから。  ・相手に失礼だから。  ・柔道  ・剣道  ・プロ野球選手  ・プロサッカー選手のスポーツマンシップ  「誰に」  ・先生に  ・生徒に | ・２～３人の班を作り、話し合い活動を行う。  ・２～３人の班でタブレットPCを使用し、ほかのスポーツでの礼儀を調べる。  ・礼儀がどのような場面でどのような作法があるのかを確認する。  ・２～３人の班を作り、話し合い活動を行う。  ・挨拶は、礼儀のひとつである事をおさえる。 |
| 展  開② |  | 〇班ごとに発表を行う。自分の意見や良い意見だと思ったものを教科書P４１に記入をする。  〇P４１の下の写真を見て、「誰に」「何を言っているのか」を考える。  〇班ごとに発表を行う。自分の意見や良い意見だと思ったものを教科書P４１に記入をする。 | 「何を言っている」  ・さようなら  ・また明日ね  ・先生の手の大きいね  「誰に」  ・全校生徒に  ・来校者に  ・先生に  「何を言っている」  ・おはようございます  ・暑いですね  ・ようこそ〇〇高校へ | ・写真に載っているそれぞれの人物の立場になって考える。  ・写真の前後の出来事についても想像して考える。  ・2枚の写真があるので1枚ずつ取り組む。  ☆自分で礼儀の台詞を考えて表現することができる。  （思・判・表） |
| 終  末 |  | 〇普段の生活から礼儀に気を付けていることはあるか？  〇教員の礼儀に関する説話例を話し、礼儀は人と関わるうえで大切であることを確認する。 | ・電車に乗るときはリュックを前に持つ。  ・自分から挨拶をする。 | ・自分の生活を改めて見つめ、礼儀に気を付けて行動していた場面があったか、した方が良い場面があるかについて考える。  ・説話例を基に日常生活から意識してほしいことや気を付けてほしいことを伝える。 |

（4）終末での教師の説話例

何かの見返りを求めるわけではなく、自分自身が知っている人に対しても、知らない人に対しても、礼儀やマナーとして気を付けていることを話す。例えば、エレベーターでボタンの前に立った時には、開くボタンを押して最後に出る、逆の立場のときには感謝の言葉を伝える等がある。

働く場面、遊びに行く場面、移動する場面、食事をする場面など、何をするときも人と関わりながら生活をしていく。自分の言葉一つで、行動一つで、相手に与える影響は大きく変わる。みんなの言葉、行動は人を幸せにし、時には人を傷つけてしまうこともある。

何気ない行動でいろんな人を良い気持ち、幸せにしていってほしいということを伝える。